

果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ)の フェロモントラップへの誘殺数が過去5か年平均より多いです！

1 作物名 果樹類(りんご、なし)

2 発生現況

- (1) 5月中旬のフェロモントラップ調査(地点数:2)において、果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ)の越冬世代成虫の誘殺数が、過去5か年平均より多かった(図1)。
- (2) 令和5年11月から令和6年3月の気温は平年と比べて高かったため、越冬個体数が多くなったと推測される。
- (3) 現地情報では、一部の果樹園で、チャバネアオカメムシ及びクサギカメムシの飛来が確認されている。

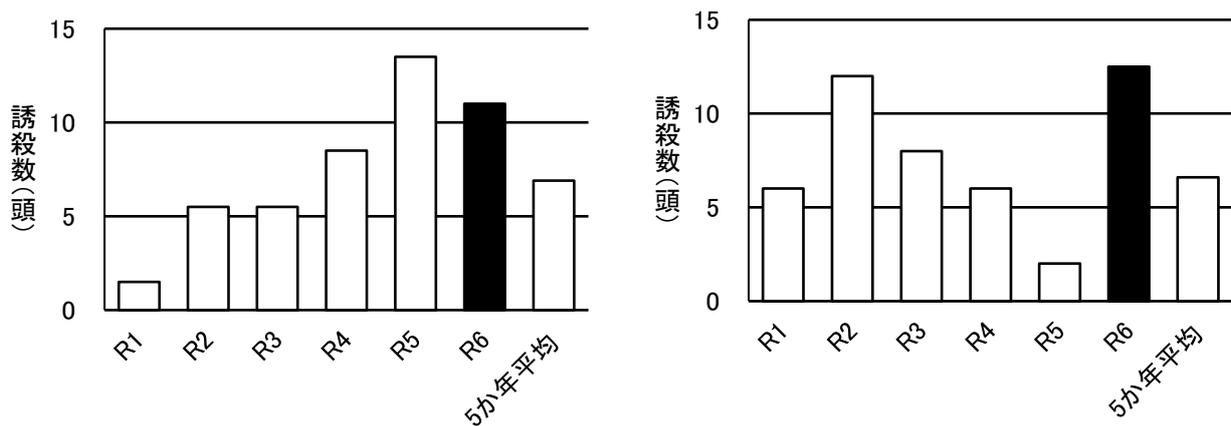
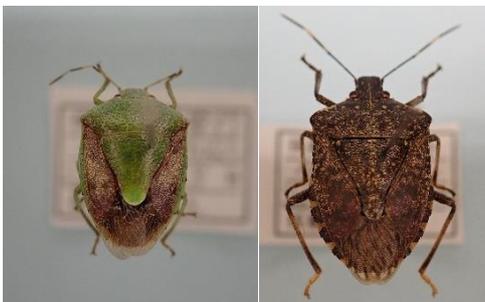


図1 フェロモントラップ調査における果樹カメムシ越冬成虫誘殺数

(左図:チャバネアオカメムシ、右図:クサギカメムシ)

(病害虫防除所5月中旬調査、5か年平均:R1~R5の平均値、地点数:2、
4月中旬から5月中旬にかけての誘殺数)



チャバネアオカメムシ クサギカメムシ
写真1 県内における主要果樹カメムシ類



写真2 果樹カメムシ類によるなし被害果(左)
加害部の下の果肉はスポンジ状になる(右)

3 防除のポイント

- (1) 果樹カメムシ類の活動には高温が好適である。向こう1か月は平均気温が平年並か高いと予報されており、ほ場への飛来が多くなると予想される。
- (2) 一般財団法人日本気象協会発表では、本年の仙台のスギ花粉飛散量は例年より下回っている。スギ花粉飛散量はスギ球果量との間に相関があるといわれており、果樹園地への果樹カメムシ類飛来が多くなる可能性がある。山林、特にスギやヒノキ林に近接するほ場では、被害を受けやすいので注意する。
- (3) 果樹カメムシ類は、春季から秋季まで長期間にわたってほ場に飛来する。
- (4) 摘果作業時にはほ場内を注意深く観察し、被害果実を見つけ次第摘果する。
- (5) 果樹カメムシ類は、りんごやなし以外の果実も加害するので注意する。
- (6) 薬剤散布は、果樹カメムシ類の活動が鈍い早朝に行うと効果的である。
- (7) 有袋栽培では、果実の肥大によって袋に密着すると袋の上から吸汁されることがあるので注意する。
- (8) 薬剤については、『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム